

## 25日 水曜

ルカ

2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。  
2:2 これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。  
2:3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。  
2:4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。  
2:5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアとともに登録するためであった。  
2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、  
2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。  
2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。  
2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。  
2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。  
2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。  
2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」  
2:13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。



2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

イエス様は全能の創造主であるにも関わらず、皇帝アウグストゥスに比べても小さな弱い存在として、この世に生まれました。そしてその謙遜の限りを尽くしたゆえに、全てにまさる栄誉をお受けになったのです。弱い小さな者であることを恥じることなく、むしろその謙遜を極めて生きましょう。そこにこそ主の栄誉が与えられることを知って、希望としましょう。

宿屋の主人は主イエスをお迎えするにはあまりにむさくるしい馬小屋を与えました。私たちは、救い主を心の王座に、人生の中心にお迎えしましょう。

飼葉桶おけに赤ちゃんとして地上に来られた救い主は、誰もがへりくだるなら会うことのできるお方として、そのようにお生まれになりました。主のこのような愛を覚えて、いつも主に近づきましょう。

また主が馬小屋にお生まれになったのは、人の心の汚れを、その身にお受けになるという象徴でもあります。私たちは、自分の汚れに敏感に気づき、正直にそれを認め、そして汚れているからこそ主をお迎えしましょう。そしてきよい者と変えていただきましょう。

羊飼いに救い主の誕生が告げられました。彼らはこの世的には報われない人生を送っていた人々でしたが、神様はそのような人々を見過ごしにはなさらないのです。むしろ、そのような人々を特別に愛して、その栄光を真っ先に表してくださいました。神様の価値観はこの世のものとは違い、ただその人の人格を尊重する愛の方であることが分ります。

羊飼いたちのように、自分がいじめに感じたり、価値がないように感じる時は、主が見てくださるということを思い出しましょう。私た

ちもそのような愛によって育てられ、また同じように人格を尊重する者となりましょう。そして主に喜んでいただき、主に特別に扱っていただけることを信じて、与えられた働きに励みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

